

62 日本館と藤田嗣治 (2021年6月3日)

パリ南端の14区にあるパリ国際大学都市は、世界各国から集まる学生や研究者のための宿舎を提供し、文化や学术交流を目的とした学術施設群です。当時のアンドレ・オノラ文部大臣とポール・アペル・パリ大学学長の提唱で、1925年に開設されました。この中にあるパリ国際大学都市日本館（日本館）は、フランス政府からの呼びかけに対して、1923年に発生した関東大震災の直後で財政難であった日本政府に代わって、実業家の薩摩治郎八が全額を出資して、1929年に開館しました。



館内には、藤田嗣治による二つの大作「馬の図」(2.35×4.62 m)と「欧人日本へ渡来の図」(3×6 m)が飾られています。なぜ美術館ではない日本館に、藤田の大作が飾られているのかご存じでしょうか？



薩摩は、木綿問屋として成功した裕福な家庭に生まれ、イギリスのオックスフォード大学に留学した後にパリへ来ました。実家の莫大な資金を使って贅沢な暮らしをしたことから、爵位を持っていなかったにもかかわらず、「バロン薩摩」と呼ばれました。薩摩は、芸術振興のために惜しみなく私財を投じ、当時パリで活躍していた日本人芸術家を経済的に支援しました。薩摩が支援した芸術家の一人に、画家の藤田嗣治（レオナルド・フジタ）(1886 - 1968)がいました。

藤田は、日本館のための絵画制作の依頼を受けてから完成まで、二年の年月をかけました。「欧人日本への渡来の図」について、後に藤田は「西洋文明が東洋へ輸入されるという画題で、長崎の遠景を描いた」と書き残しています。港町の長崎は、16世紀末以降に西洋文化の入口となっていた場所で、日本とヨーロッパとの交易の中心地でした。しかし、下記の写真をご覧のとおり、長崎を描いたと言っても、裸体の人が多く、日本人が描かれていない絵で、当時の長崎を写生した絵ではありません。ぜひ日本館で実物をご覧になって、フランスで長く生活した藤田が思い描いた長崎の情景を味わってください。

パリの日本大使館員が見つけたフランスの中の日本



開館時間 平日 8時30分 - 13時、14時 - 16時30分

観覧料 : 1人2ユーロ

<http://maisondujapon.org/index.html>